



もり

北の森林 国有林

写真：ギンリョウソウ
(別名：ユウレイタケ)
(厚沢部町)

今月のトピック

- ・エゾシカ被害対策の推進



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



エゾシカ被害対策の推進

計画保全部 保全課

北海道森林管理局では、エゾシカによる農林業被害等の軽減に向け、狩猟者への対応と、自ら又は自治体との連携による捕獲事業に取り組んでいます。

【エゾシカによる被害】

北海道内のエゾシカによる農林業被害額は、ピーク時よりは減少しているものの近年は、横ばいからやや増加傾向となっています。

森林への影響については、雄シカの生え変わった角を樹皮に擦りつける角こすり（写真1）や、植物の食害



写真1 角こすり（トドマツ）

（写真2）などが起こっており、森林の管理や森林生態系への影響が懸念されています。



写真2 食害（ノリウツギ）

【職員による捕獲の実施】

近年、狩猟者の高齢化、後継者不足と言われている中、国有林の管理を行う者として、職員自ら「くくりワナ」を使用した捕獲に取り組んでいます。昨年度は、稚内市で実施し、宗谷森林管理署以外からも多くの職員が参加し、3週間で12頭捕獲しました。

実際にワナを仕掛けていく中で、どういう箇所でワナを仕掛けるのが効果的か、冬期間のワナ本体の凍結をどう解決するかなど、有識者の方々からアドバイスをいただきましたながら、経験を積み重ねているところです。（写真3、4、5）



写真3、4 職員によるくくりワナ設置の様子



写真5 くくりワナで捕獲したエゾシカ

【自治体等との連携による捕獲】

エゾシカの越冬場所は判っているものの、積雪等で駆除者が現地に行けないというケースも多く、そのような場合、自治体と連携し、森林管理署が林道除雪と工サによる誘引を、自治体が捕獲を実施する取組を行っています。

また、シビエ活用が可能な地域においては、囲いワナによる生体捕獲を展開しており、資源の有効活用も進めています。（写真6、7）



写真6 囲いワナ（ドローンで撮影）



写真7 捕獲されたエゾシカ

【エゾシカの影響調査】

北海道森林管理局においては、職員が業務の一環としてエゾシカの簡易影響調査を行っています。

日々の業務として、森林の管理を行っているなかで発見するエゾシカの被害状況などを記録し、取りまと

めることで、北海道全体のシカの影響を把握する取り組みを行っています。

全道各地に職員がいる森林管理局だからこそ収集できる情報を積み重ね、関係機関と情報を共有し、エゾシカ被害対策を進めています。(図1)

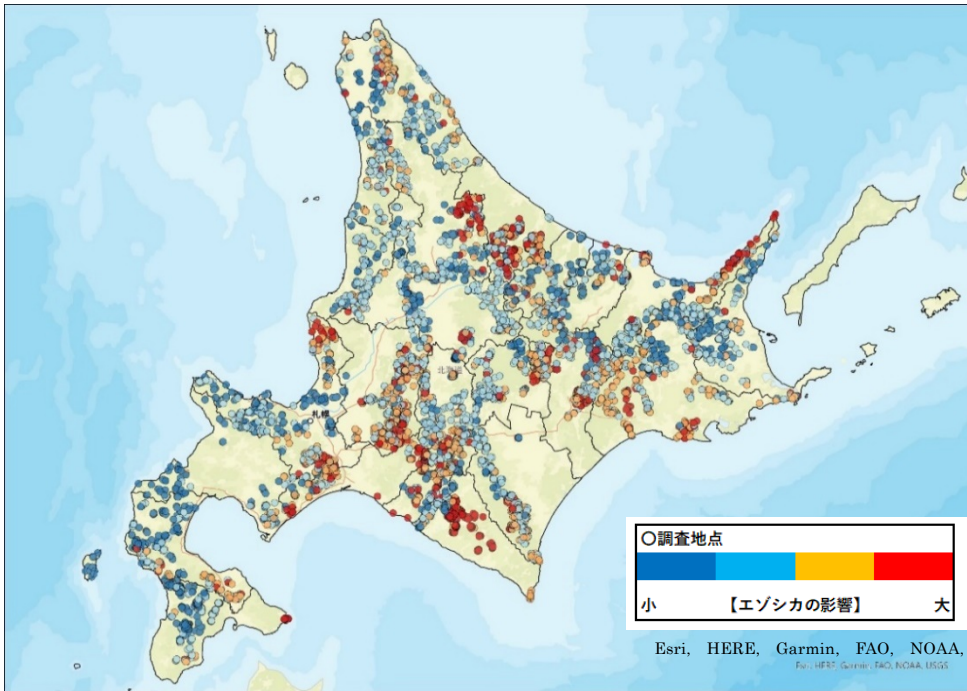


図1 エゾシカの簡易影響調査（令和元年度、令和2年度実績）

【情報通信技術を利用したエゾシカ対策】

エゾシカの生息状況や被害を把握するうえで、自動撮影カメラは非常に有効な手段となっています。

近年では、撮影した写真を通信回線で転送し、インターネット上で写真を取得することができず。

また、数百、数千枚となる写真からエゾシカが写っているデータを一枚ずつ確認するには、膨大な時間と

労力がかかることから、北海道森林管理局では、AI技術を活用し、エゾシカの判別ができるように取り組んでいます。(写真8、9)

多くの職員が写真データを収集し、AIに学習させることで、精度の高い判別が可能となります。

エゾシカ被害対策は非常に重要な課題です。限られた時間、人員で取り組めるように、引き続き省力化に努めていきます。

エゾシカ以外にも森の動物が色々写っています



写真8 AIでのエゾシカ判別（数値はエゾシカの確率）



写真9 エゾシカ以外にも森の動物が色々写っています

【おわりに】

北海道森林管理局では、今年度の重点取組事項として「野生鳥獣による被害の低減に向けた取組」を掲げています。

農作物だけでなく森林内に発生する若木も食べてしまうエゾシカの増加は、適切な森林の管理を進めていく上で大きな支障となります。

国有林に集まってくるエゾシカを如何に効率的に捕獲するかが、地域の農業だけではなく林業にとっても重要となっています。

目標とする森林づくりのため、地元市町村等と連携し、エゾシカ被害の低減に向け地道に取り組んでいく考えです。

※注意喚起

先日、厚岸町の国有林で大量のエゾシカ残滓の不法投棄が見つかりました。

今後、このようなことが繰り返されないよう巡視等に取り組んで参ります。

【日高北部森林管理署】 木造建築・我が署紹介！



◎日高北部森林管理署庁舎は、平成19年3月に完成し、今年で築15年になりました。

構造・規模は、木造平屋建て、延べ床面積約430㎡です。

構造材は、カラマツ大断面構造用集成材約39㎡、内・外装材約23㎡、合計約62㎡の木材が使用されています。

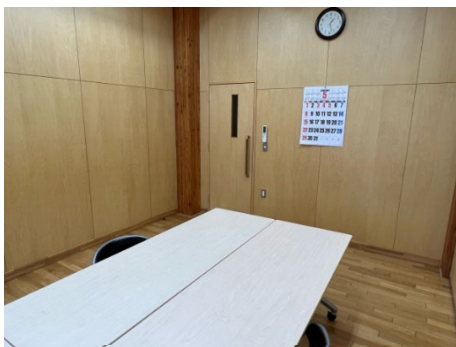
庁舎設計時のコンセプトは、北海道から産出される木材を使用し、地域に親しまれる庁舎になるよう周囲の環境にあった色彩・外観とし、「木の良さを多くの方に認識を深めて頂ける建物にする。」というものでした。木造建築物の構造は多々ありますが、当署においては、木質二方向ラーメン構造(柱と梁で長方形を構成)を採用しています。

その構造の主な特徴は次の4点です。

- 一. 木造建築物として2000年の耐震基準を確保。
- 二. エンジニアリングウッド(板や木片を接着し、必要な強度が得られるよう加工された木質材料で、性能にバラツキが少なく強度も保証)の採用により、塩害などに強く火災時の強度を保持しています。
- 三. 筋交いや耐力壁が不要なため、間口・奥行きともに自由度の高い、開放感あふれる空間創造が可能となっています。
- 四. 接合部の金具の露出をなくし、木の美しさや温もりを最大限に活かすことが可能になっています。

また、外装は正面に大きなカラマツ集成材、羽目板にもカラマツを使用しており、周囲の環境にあった外観となっています。

事務室の床はカラマツフローリングを使用し不要な壁がなく空間の広がりが増え、窓も多く配置されていて、とても



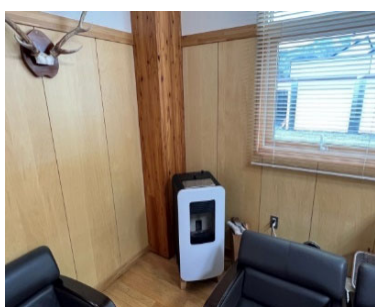
会議室

会議室は、様々な会議に対応できるよう中間に可動間仕切り壁を設け、ナラフフローリングやシナ台板を使用しています。



開放感あふれる事務室

明るい事務室になっています。



環境に優しく暖かいペレットストーブ

◎日高北部森林管理署は、北海道中央南西部に位置し、日高町、平取町の国有林約10万haを管轄しています。管内の国有林には、幌尻岳、パンケヌーシ岳、チロ口岳、ルベシベ岳、北戸薦別岳などの山々があり、希少な自然環境が残されており、「日高山脈襟裳国定公園」に指定されています。

また、史跡名勝天然記念物「沙流川源流原始林」や「日高山脈森林生態系保護地域」等は野生生物の重要な生息環境となっています。このような、森林とのふれあいや生物多様性の保全、原生的な天然林の保全など、森林の公益的機能の維持増進を図るため森林の適切な管理・経営に努めています。

こんにちは 森林官です!

胆振東部森林管理署
稲里森林事務所 森林官
大谷 祐司



【むかわ町の紹介】

稲里森林事務所は、胆振東部森林管理署の東部に位置するむかわ町穂別の市街地にあり、穂別森林事務所との合同森林事務所となっています。



穂別の町中の看板

むかわ町は、人口約7500人で、穂別メロン、ししゃもの産地、たんぼぼ公園、恐竜の町として知られています。また、「人と自然が輝く清流と健康のまち」をキャッチフレーズとし、山・川・海に囲まれた町で、さまざまなイベントが行われています。

かつて木材搬出のために河川を利用していた頃に鵜

川の上流で行われていた「流送」に、ちなんだイベントの「流送まつり」や地元食材や旬のグルメなどを楽しめる「むかわグルメフェスタ」等、むかわ町の魅力を発信しています。



ホベツアラキリュウ

穂別博物館には、博物館建設のきっかけとなった化石ホベツアラキリュウや、2019年に新属新種として発表されたカムイサウルス・ジャポニクス（通称むかわ竜）、国内最大級の化石等も展示されています。

また、むかわ町北部の坊主山（標高790m）には、むかわ町民や道内各地から多くの登山者が登ります。



坊主山山頂から夕張岳を眺望



カムイサウルス・ジャポニクス

頂上付近には、山小屋が整備されていて、初心者にとっても、やさしいコースです。（所要時間：約1時間45分 距離：5km）

【稲里森林事務所の業務】

稲里森林事務所で行う業務については、森林の整備計画を立てるための地林況調査、ドローン等を使って民有地との境界管理、エゾシカ影響調査、ヒグマの痕跡調査、林道の整備、各種監督業務等、近年エゾシカの森林被害、農作物への被害が多いので、むかわ町と連携して、エゾシカ連携捕獲事業も実施しています。

【最後に】

当事務所に赴任してから1年が経ちますが、これからも日々勉強をしながら、国有林の管理経営に努めて行きたいと思えます。



坊主山小屋

も り 森 林 の 話

若手職員のコーナーです

第20話
十勝東部森林管理署
田中 良

【日本一寒い町 陸別町】
私が勤務している陸別森林事務所は、日本一寒い町として有名な陸別町に所在しています。
陸別町の面積の8割が森林であり、昔から林業の町として有名です。
十勝地方最北に位置し、周りを山に囲まれた盆地であるため、一年を通して寒暖差が激しく、今年の冬は最低気温、氷点下29・2度を観測しました。非公式ではありますがありますが、過去には氷点下40度を下回り、計測不能になったそうです。

【主な業務内容】

陸別森林事務所は、国有林野の管理をはじめとする境界保全、各種収穫調査、造林等の業務など多種多様な業務を実施しています。

入庁後初めて国有林に足を踏み入れたときは、北海道の壮大な自然に感銘を受けました。
しかし、北海道の代表樹種であるトドマツの判別すらまともにはできない状況で、毎日、樹木図鑑を開き、冬でも落葉樹を見分けることができるように、葉っぱ以外の特徴を重点的に少しずつ勉強していきましました。

【森林教室について】

そんな樹種を判別することとで精一杯な私ですが、入庁後早々に森林教室の講師を担わせてもらいました。
陸別町では、陸別小学校を対象に「総合的な学習時間」の一環としてふれあいの森で森林教室を実施しています。

実施内容は、児童の皆さんに少しでも木を知ってもらうために、遊歩道を散策しながら葉っぱ探しゲームを行い、見つけた葉っぱや樹木について説明をします。

また、木以外にもエゾシカやタヌキといった糞を確

認することができる。森林は野生動物にとっても欠かすことのできない生活環境なのだと思ってもらうことができました。



森林教室の様子

私自身、講師として務まるのだろうかという不安もありましたが、コロナ禍で自然と触れ合う機会が減っている児童に対して、身近な自然について知ってもらいたいという一心でやり遂げることができました。
今回の森林教室をきっかけに自然や林業に対して少しでも興味を持ってもらえればと願っています。

【森林の昆虫の話】

森林の中を散策するとエゾシカの糞をよく見かけます。その糞に時々付いてい

る昆虫がいます。オオセンチコガネというコガネムシの仲間です。



オオセンチコガネ

オオセンチコガネは綺麗な光沢をしており、緑色っぽい個体だけではなく、地域によっては赤や青といった様々な光沢を放つ昆虫です。

そんなロマンのある昆虫ですが、驚くべきことに動物の糞、特にエゾシカの糞を食べる糞虫なのです。
エゾシカは北海道各地で観察することができると思いますが、エゾシカの糞を目撃した際は、オオセンチコガネを探してみたいかがでしょうか。写真とはまた違う色をした個体に出会えるかもしれません。

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索



北の森づくり専門 学院の生徒が就業 実践実習



【日高北部森林管理署】

令和4年5月中旬、初夏の汗ばむ陽気のなか、北海道立北の森づくり専門学院の学生が、当署管内の国有林で、森の成長を促すための森林整備の作業に従事していました。当プログラムは、北森カレッジと道内の林業関係事業者が協力して実施されるもので、2年生になると、授業の一環として年に3回、2週間の長期就業実践実習として道内の林業関係の事業者にお世話になるそうです。

この度、当署管内で森林整備事業を請け負っている王子フォレストリー（株）は、2名の学生を実習生として受け入れています。従事している作業は、伐採した木材を一時的に保管する「土場」で、高性能林業機械のハーベスタを使った木材の積み上げやチェーンソーを使った伐採などです。

学生達は事業者のベテラン職員の方々から、技術や安全確保の面からの指導をうけながら、適度な緊張感のなかよい汗を流しているようでした。

「囚徒が植えたスギ林」月形町と多様な活動の森における協定を締結



【空知森林管理署】

令和4年5月25日（水）月形町と空知森林管理署において「多様な活動の森」における国民参加の森林づくり活動に関する協定の調印を行いました。協定場所となる月形スギ保護林は、明治23年に樺戸集治監の開庁10周年記念植樹として囚徒により植えられ、その後国有林に移管されました。望郷の念から囚徒が労をいとわずに手入れをしたと伝えられるスギ林は林齢130年を超え、直径50cm樹高25mを超える個体も多くあり、高く林立する姿は厳かな雰囲気にも包まれています。スギ林を横断している町道や林内には遊歩道もあり、月形町から歴史あるスギ林を自然観察教育や美化活動等を行う場として活用したいとの要望があり協定締結に至りました。多くの町民の方に親んでいただきたいと思います。

小清水原生花園 の火入れ (令和4年5月12日)



【網走南部森林管理署】

小清水原生花園は、網走南部森林管理署管内の小清水町にある、オホーツク海と濤沸湖に挟まれた約8kmの砂丘に形成された天然のお花畑です。

網走国定公園にも指定されており、時期になるとスカシユリやエゾキスゲ、ハマナスなどの花々が咲き乱れます。しかし、近年は野火の発生や家畜の放牧等による攪乱の減少や外来種の侵入により、花々は衰退傾向にあるため、人為的に火入れを行うことで植生の回復を図っています。

この小清水原生花園は真ん中を国道244号線とJR釧網線が貫いているため、火入れは朝4時半から列車の始発前に国道を止めて行われます。

当日は前日以前から晴れが続き、海へと風が吹く絶好の火入れ日和。枯草に火をつけるとたちまち燃え上がり、海側へと火が移っていきました。

小清水原生花園の花の見ごろは6月中旬から7月中旬とこれからなので、ぜひお越しください。

朱鞠内小学校で 春の森林環境教育 を実施



【空知森林管理署 北空知支署】

令和4年5月18日（水）、幌加内町立朱鞠内小学校の「わんぱくの森」において、今年度初となる森林環境教育を実施しました。

今回は、「春を探す」を課題に全校児童6名、教職員4名が参加し、当支署から職員7名のサポートにより実施しました。

最初に参加者の自己紹介、本日の活動内容・注意事項などを説明し、冬の間保管していた「わんぱくの森」の看板を設置しました。

森の中を散策して、以前植えたアカエゾマツやミズナラの苗木や巣箱の様子を確認し、今回見つけたキツキがあけた穴があるトドマツの前で、職員から森林で見られる鳥について説明を行いました。続いて、木をノコギリで切る体験を行い、最後に、わんぱくの森をドローンで空から一緒に観察しました。

